

平成23年度 長崎県立佐世保中央高等学校昼間部 職員自己評価結果

1回目評価人数22/22 100% 2回目評価人数22/22 100%

<評価>・・・4 十分達している 3 おおむね達している 2 どちらかという達成されていない 1 ほとんど達成されていない

キャッチフレーズ	「押し開こう、力強く、希望の扉を！」
教育方針	(1)真理と正義を愛し、学習に励み、人格の完成に努力する人材を育成する。
	(2)心身ともに健康で、自他を敬愛する実践力のある人材を育成する。
	(3)勤労を尊び、責任と礼節を重んじ、明るい社会の建設に役立つ誠実な人材を育成する。
	(4)生涯学習講座の充実を通して、県民のニーズに応える。

評価項目	No.	具体的方策	H23.10	H23.3	全	成果と課題
1. 学校経営						
努力目標	1	佐世保中央高校の「顔」として不撓不屈の中央魂の継承と発揚に努める。	2.6	2.5	2.6	基礎学力の充実については、漢字検定合格を念頭におきながら月1回の校内漢字テストの実施、また本年度よりの英単語コンテストの実施等、生徒の学習意欲を喚起する取り組みを行った。しかし、まだ取り組ませる上での工夫が必要である。
	2	授業規律を確立し、基礎学力ならびに応用力の充実に努め、学力の向上をはかる。	2.4	2.5	2.5	
	3	教育課程の再編成や学校行事の活性化など昼間部の特色づくりに努める。	2.9	2.7	2.8	
	4	中高連携や生徒および保護者面談を通して個別指導を強化しながら、全職員で情報を共有し特別支援教育の充実に努める。	2.9	2.8	2.9	
2. 教育活動						
教育活動	5	各教科・学年・教務の連携を図り、生徒の進路希望に適した履修指導を行う。	3.0	3.0	3.0	基礎的な生活習慣を確立させ、授業規律を確保していくことが教科指導の出発点である。一層努力していきたい。
	6	生徒の実態に応じて教材を精選し、教育機器を用いるなどして指導方法を工夫する。	2.7	2.8	2.8	
	7	担当教師間で評価規準を作成し、共通の基準により多角的な評価を行う。	2.8	3.0	2.9	
総合的な学習の時間	8	職業理解に関する様々な活動を通して、自己実現を目指す。	2.9	2.7	2.8	
	9	生徒一人ひとりのキャリア発達を支援しながら自己決定力の育成を目指す。	2.7	2.6	2.7	
3. 組織運営						
各種委員会	10	各種委員会の目的や性格について全職員の共通理解を図る。	2.8	2.9	2.9	外部講師を招き、「発達障害をもつ生徒についての理解と対応」についての講話を聞き、この問題に関する理解を深めた。 授業参観については年に1回、授業公開を行っているが有効な活用に至っていない。
	11	各種委員会での話し合いの結果を、教育活動や学校経営等に生かす。	2.8	2.9	2.9	
校内研修	12	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全職員による校内研修を行う。	3.0	3.0	3.0	
	13	授業見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。	2.8	2.8	2.8	
現職教育	14	教育センター等の各種公的な研修会へ積極的・計画的に参加し、資質向上を図る。	2.6	2.6	2.6	
	15	研修内容によっては研修受講者がその内容を職員に知らせる機会を設ける。	2.6	2.9	2.8	
4. 教育環境						
学校環境の整備	16	地域清掃活動や日々の清掃を実施し、校内の環境美化に努める。	2.7	3.0	2.9	情報セキュリティ対策管理要綱の改訂をおこない、一層のデータ管理に努める態勢を整えた。
情報インフラの整備・充実	17	パソコン等を使った出席統計などの校務処理を適切に行う。	3.1	3.3	3.2	
	18	情報セキュリティ対策管理要綱に則してデータ管理を確実に行う。	3.1	3.1	3.1	

5. 開かれた学校づくり						
保護者や地域関係機関との連携	19	PTA総会やPTA評議委員会の在り方を見直し、保護者との連携を強化する。	2.7	2.8	2.8	HPの更新は、昨年と比較して更新頻度があった。今後も、行事ごとの更新を目指したい。
	20	生徒の状況について、学校と保護者が緊密に連絡・情報提供等を行う。	2.9	2.8	2.9	
	21	近隣地域の高校、中学校等との情報交換や連携に努める。	2.6	2.6	2.6	
	22	HPを適宜更新し、保護者・地域に向けて学校情報の発信を行う。	2.3	2.5	2.4	
6. 校務分掌						
教務部	23	授業時間の確保、履修ガイダンスなど学習指導の充実に努める。	3.0	2.9	3.0	生徒理解および支援をしていくための情報交換会は、かなりの時間をかけて実施しているが、実際の場面での生徒の状況に応じた職員の動きには課題が残った。 生徒会活動は、昼休みの校内放送をはじめ生徒による新しい取り組みがなされてきており今後も期待ができる。 スクールカウンセラーからは、適切なフィードバックがおこなわれており、生徒理解の上で大変助かっている。
	24	多様な生徒に応える効果的な教育課程を研究し、単位制の再構築を図る。	2.9	2.6	2.8	
生徒指導部	25	生徒理解及び把握に努め、個々の生徒に応じた指導によって活気ある生徒集団を作る。	2.7	2.8	2.8	
	26	社会人として通用する挨拶・マナーを身につけさせ「心の制服」を作る。	2.2	2.3	2.3	
進路指導部	27	自己の適性と能力を把握させ、早期に進路目標を具現化し、自己実現に向けて積極的な態度を養う。	2.8	2.7	2.8	
	28	各学年次との連携を密にし、各段階に応じた進路指導の充実に図り、進路目標達成に向けた進路支援を行う。	3.0	2.8	2.9	
生徒会指導部	29	生徒会役員会を軸として生徒の自主性を伸ばす生徒会活動を目指す。	3.1	3.3	3.2	
	30	地域清掃など地域に貢献できる学校行事を工夫する。	2.5	2.9	2.7	
保健美化部	31	歯科講話など各種の講話を通じて自他の身体や命を大切にすることを育てる。	3.0	3.1	3.1	
	32	校内の環境検査・安全点検を実施し、学習環境の整備と校内美化に努める。	2.8	3.0	2.9	
保健相談部	33	相談しやすい教育環境を作り、スクールカウンセラーを十分に活用する。	3.1	3.2	3.2	
	34	情報交換会や職員研修によって全職員で幅広い情報を共有し、多様な生徒の理解と支援に努める。	3.0	3.2	3.1	
7. 学年経営						
1年次	35	生活時間の切り替えや他者との信頼関係を築くことができる人間性の涵養に努める。	2.5	2.5	2.5	1年生で高校生活に適応できず、欠席が続く場合には退学するケースが少なからず見られた。一方、家庭の状況等について教育相談部やSCとの連携が適切になされ、進級に至ったケースもあった。成功例を増やさなければならない。
	36	行事に真剣に取り組む心や他者を思いやる心を育てる。	2.7	2.5	2.6	
2年次	37	規律ある生活習慣と態度を身に付けさせ、主体的な学習を通して学力の向上を図る。	2.5	2.4	2.5	
	38	進路実現に向けての学習を通して社会性を身に付けさせる。	2.7	2.5	2.6	
3年次	39	適切な学習目標を設定し、全員の進路実現を図る。	3.0	2.9	3.0	
	40	社会人としての自立を見据え、社会性や協調性を育む。	2.5	2.5	2.5	
4年次	41	規律ある学校生活をおくるために、学習習慣やマナーを身に付けさせる。	2.0	1.7	1.9	
	42	ランティア活動などを通して豊かな心を育てる。	2.1	1.7	1.9	